

# 生涯教育



白神山地（青森県）

伝承講演会「雅楽」に親しむ	2
伝承研修 伝統文化と大地の歴史（福井編）	4
講演会「小山 豊meets島 裕介～和JAZZ～」	6
デジタル一眼レフカメラ講座	8
プロフィール・インタビュー 早稲田大学教育総合科学学術院 教授 菊地 栄治さん	12



# 伝承講演会

# 「雅楽」に親しむ

6月8日(土)、めぐろパーシモンホール小ホールにて、  
一般社団法人伶楽舎宮丸直子氏をお招きし、雅楽の  
入門講座が開かれました。



## 雅楽とは

雅楽は、平安時代から千年以上もの時を経て、今日まで伝えられてきた日本の代表的な伝統音楽の一つです。その源を探ると、5世紀以降に大陸から伝えられたさまざまな外来の楽舞、古くから日本で歌われていた歌物など、いろいろな音楽が元になっているといわれています。これらが次第に融合し、日本人の感性に合うように取捨選択されて、日本の雅楽として大成しました。雅楽は主に宮中で伝承され、儀式の音楽として演奏されることが多く、一般には、大きな神社や寺院で時折耳にする程度の存在でしたが、今日では芸術音楽として鑑賞される機会も多くなりました。



今回は、管絃と舞楽の二本立てでプログラムが構成されました。「管絃」は、舞を伴わず、楽器の合奏のみとなります。「平調音取、越天楽、黄鐘調音取、西王楽破」などが演奏されました。一方、舞が付くものを「舞楽」といい、「陵王」が演じられました。「陵王」は、中国南北朝時代の武将で蘭陵王長恭(573没)という実在の人物の故事を題材に作られた舞楽です。武才に優れた蘭陵王は、大変な美男子であったため、戦には厭めしい仮面を着けて臨んだということで、面をつけて舞います。

## 雅楽の楽器

- 笙(しょう)……十七本の竹を縦に束ねてあり、その形は鳳凰が羽を休めている姿ともいわれます。五々六の音を重ねて「合竹」という和音で演奏します。
- 箏(びちりき)……縦手笛で、竹の管に荻で作ったリードを差し込んで演奏します。合奏の中では中心となる旋律を演奏します。
- 龍笛(りゅうてき)……主に唐楽で用いる横笛です。竹製で七つの指孔があります。指を使わず口の圧力だけでなめらかに音を上げたり下げたりする奏法



琵琶



龍笛



笙



笙



鉦鼓



太鼓



鞆鼓



箏

「塩梅」が特徴です。多くの曲はこの笛の独奏で始まります。

● **琵琶(びわ)**……近世の琵琶に先立つ雅楽の琵琶(楽琵琶)は、固い木材を用いた絃楽器です。絃楽器は基本的にはリズム楽器で、琵琶は主に分散和音で演奏します。

● **箏(そう)**……雅楽の箏は近世の箏の元になったもので、十三本の絹糸の絃に柱を立てています。琵琶と同様リズム楽器として、主に「閑搔」「早搔」などのパターンで演奏します。

● **鞆鼓(かっこ)**……左右両面の皮を両手に持った細い桴で打ちます。鞆鼓奏者は合奏の中ではリーダー的な役割を持ちます。

● **太鼓(たいこ)**……火焰の飾りの付いた枠に吊していることから、吊り太鼓とも呼ばれます。繰り返すリズムパターンの終わりに打たれ、曲の後半ではたくさん鳴らされます。

● **鉦鼓(しょうこ)**……雅楽で唯一の金属製の楽器です。鞆鼓、太鼓とともにリズムパターンを作り、高音の澄んだ音色で全体に彩りを添えます。

※以上、配布資料より引用

各楽器の紹介では、楽器の特徴を音とともに解説いただきました。また「赤とんぼ」や「メリーさんの羊」など誰もが知っている曲を演奏してもらい、楽器の特性を理解しました。

## ワークショップ

雅楽の「唱歌」を参加者全員で行いました。筆算の楽譜を、右手で音頭を取りながら「チ〜、ラ〜、ロ〜、ル〜」と歌い上げました。雅楽を始めるには、楽器を持つ前に必ず唱歌を行うとのことでした。

舞台では、舞の基本動作と決めポーズの体験を行いました。参加者から「体幹を使うので二曲踊るには稽古を相当積まないとできないな」という感想がありました。また、ホールホワイエでは、龍笛、鉦鼓と太鼓の体験を行い、大勢の方が列をなしていました。龍笛は、上手く音が鳴らず難しいですが、皆さん何度か吹くうちに音が出るようになっていました。

今回、大河ドラマの時代背景が平安だった影響もあつてかチケットはすぐに完売しました。また、ワークショップの楽器の体験コーナーでは、多くの方が参加されました。演奏会にもぜひ、足を運んでみてください。

雅な世界へ誘っていただいた「伶楽舎」の奏者、演者やスタッフの皆様にご感謝申し上げます。

今回の伝承講演会は、「能」を予定しています。ぜひご参加ください。

### 伶楽舎

1985年に発足した雅楽演奏グループ。音楽監督・宮田 まゆみ。現行の雅楽古典曲以外に、魔絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏に積極的に取り組み、国内外で幅広い活動を展開。

伶楽舎 Webサイト  
<https://reigakusha.com/home/>



舞の体験



鉦鼓の体験



舞楽「陵王」



龍笛の体験



講師 伶楽舎 宮丸 直子氏



福井県立恐竜博物館の前で



伝承研修

「ふるきよきものの伝承」

2024年8月22日(木)～8月23日(金)

失われつつある  
日本の精神文化を求めて

## 北陸新幹線 福井・敦賀開業記念

# 伝統文化と 大地の歴史 (福井編)

今回の伝承研修は、北陸新幹線の福井・敦賀開業に合わせて福井県を訪問しました。伝統文化である越前和紙の紙すきを体験し、恐竜博物館や東尋坊で大地の歴史を感じることができました。



応募作品は40文字以内で。毎年テーマが設けられ、今年は「願い」。それぞれの願いをしたためる参加者



大きな感動が詰まっている小さな館。これまでに集まった160万を超える手紙の中から選ばれた作品が展示されている

言葉に思いを込めて  
一筆啓上  
日本一短い手紙の館

一行がまず訪れたのは「一筆啓上日本一短い手紙の館」。館内には、国内外から寄せられた、心のこもった短い手紙がずらりと展示されています。1993年から毎年開催されている一筆啓上賞の入選作品です。  
一筆啓上賞は、徳川家康の家臣本多作左衛門重次が、陣中から妻に宛てた、ある短い手紙を知って



全景図を前にガイドの説明に耳を傾ける。19の建物が国の重要文化財

永平寺は、70を超えるお堂がある広大なお寺です。1244年に道元禪師によって開かれ、現在は曹洞宗の大本山として、修行僧が全国から集まります。永平寺の修行は厳しく、特に冬の寒さが耐え難いことから、1年続かない人も

修行僧の生活に触れる  
曹洞宗大本山 永平寺

もらうために始まりました。「一筆啓上火の用心 お仙泣かすな馬肥やせ」。「お仙」とは子どもの名で、短い文ながら家族を思いやる気持ちがよく現れており、手紙の手本とされています。  
参加者の皆さんもここで手紙の執筆に挑戦し、一筆啓上賞に応募しました。入賞の発表は来年1月とのことで、結果を楽しみに館を後にしました。

多いとのこと。一行は、修行僧の案内の下、厳かな気持ちで境内を見て回りました。



修行僧が修行の一貫として参拝客を案内してくれることも。修行僧は流れる雲や水に例えて「雲水」と呼ばれる



傘松閣(さんしょうかく)。天井には、昭和の一流日本画家による230枚の絵がはめ込まれている。ほとんどが花鳥風月だが、5枚だけ鯉、唐獅子、葡萄とリスが描かれており、一行は天井を見上げて探した



修行僧が坐禅、食事、睡眠を行う僧堂。内部は撮影禁止。一人一畳のスペースで生活し、私語は厳禁。たくあんも奥歯でかみしめ静かに食べるという

太古の世界へ  
福井県立恐竜博物館

恐竜王国とも言われる福井県。日本で発見された恐竜化石のうち、実に約8割が勝山市など福井県内で見つかっています。一行は



今にも襲い掛かりそうな恐竜



リアルな足元



古代への浪漫が広がる館内。50体の恐竜骨格が展示されている。本物の骨を使ったものも

福井県立恐竜博物館を訪れ、迫力満点の骨格やジオラマを見学。太古の世界へのタイムトラベルを楽しみました。

ドラマでお馴染みの絶景  
東尋坊

誰もが一度は見たことがあるであろう、刑事と犯人が断崖絶壁で言葉をかかわすシーン。その撮影地として有名なのが、福井県福井市の東尋坊です。日本海の沿岸に約1キロに渡って、「柱状節理」と呼



青い空と美しい日本海が広がる最高のロケーション



柱状節理とは、溶岩やマグマが冷えて固まるときにできる五角形や六角形の柱状の割れ目のこと

ばれる柱を束ねたような岩場が続きます。約1200〜1300万年前に噴き出した溶岩が、地殻変動や荒波によって削られて現在の形になったと言われています。一行は、階段を降りて下からも崖を見上げ、大自然の創り出した芸術を堪能しました。

紙すきに挑戦  
越前和紙の里

福井県越前市は、1500年という長い歴史を持つ和紙の産地です。



好みの押し花や色紙を選んで配置し、世界にひとつだけの特別な和紙を制作



紙すき体験。桁(けた)で紙料をすくう。こうぞ、みつまたなどの植物が主原料

古くから公家、武家、寺社などの公用紙、書道や日本画の和紙として用いられてきました。越前和紙の里では、越前和紙をつくる工程を見学した後、紙すきにチャレンジしました。

城下町が現代に蘇る  
一乗谷朝倉氏遺跡博物館

最後に訪れたのは、一乗谷朝倉氏遺跡と2022年に開館したばかりの一乗谷朝倉氏遺跡博物館。戦国時代に栄華を誇った朝倉氏が、城下町を築いた場所です。武家屋敷、寺院、町屋、職人屋敷、道路といった町並がほぼ完全な姿で発掘され、それらの遺跡を生かした展示を見ることが出来ます。ガイドの案内の下、当時の人々の暮らしに思いを馳せました。



繁栄を見ることができるジオラマ。博物館の館内には、職人の道具などたくさんの出土品も展示されている



復原された町並みを探索



住居跡



遺跡の入口「唐門」



ガイドの解説を熱心に聴く参加者

## 講演会



# 小山豊 meets 島裕介

## 和 JAZZ

和楽器とJAZZの融合は、洋楽なのか邦楽なのか、それは「和JAZZ」

9月14日(土)、めぐろパーシモンホール小ホールにて、津軽三味線 小山豊氏、トランペット&フルート 島裕介氏、ギター 齋藤純一氏、和太鼓 大多和 正樹氏による演奏とワークショップを行いました。

### 和楽器と洋楽

邦楽をJAZZ風にアレンジしたものは数多くありますが、三味線や和太鼓といった和楽器でJAZZを奏でるといえるのは多くありません。和楽器奏者は、着物・袴と黒腹掛・黒股引で、洋楽器奏者は、スーツなどの洋服で登場しました。ファッションと音楽は、密接な関係があるとのことですが、見た目も「和JAZZ」です。さて、どんなサウンドとなるのでしょうか。

いざ演奏が始まってみると、馴染みの曲が心打つ曲へと変化します。歯切れ良い

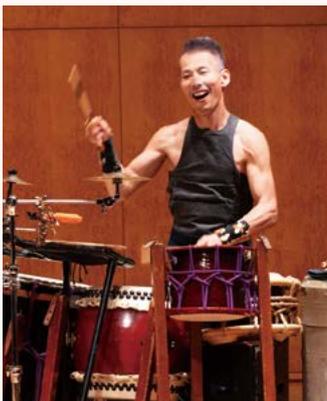
三味線、心打つ太鼓、水が流れるようなギター、そしてトランペットやフルートが心を震わせます。ソロパートでは、それぞれの楽器の特徴と技法が輝きます。そしてセッションでの掛け合いは、アレンジが入り、見事なものでした。三味線パートで、中東、フラメンコや沖縄風のアレンジが入り、メロデーで世界旅行へ連れていってくれました。それぞれの曲は、ここでしか聞けないものであったでしょう。

### 「和の心」を大切に

小山氏は、津軽三味線の家元であり和

楽器を再認識して日常に戻したいという思いを持たれています。親しみやすい音楽へアプローチし、「和の心」を大切にし、後世に残す、そこに同じ思いのメンバーが集うという活動が「和JAZZ」という形で表現されているでしょう。

今回の演奏者は、それぞれでプロジェクトを持っていて、演奏活動をされています。島氏と齋藤氏のスタンダードJAZZ「名曲を吹く」に小山氏がゲスト出演されたことをきっかけに、このプロジェクトが生まれ、後に大多和氏が加わりました。定期的に集まり活動されています。裏話とはなりませんが、今回10曲以上演奏していただきましたが、リハーサルは、2曲しかやっていません。



和太鼓 大多和 正樹氏



ギター 齋藤 純一氏



トランペット 島 裕介氏



三味線 小山 豊氏



和楽器で刻むリズムとメロディー



文章区切りの「、」や「。」で返す



楽器で会話するセッション



和の心を語る小山 豊氏



即興の神髄を語る島 裕介氏



ステージを終えて

今回の講演会では、小山氏にテレビ取材があり、多くのカメラで撮影されています。少し緊張感のある講演会でしたが、ステージと客席が手拍子を通じて一体となり、とても盛会でした。終演後、皆さんの楽しかったという笑顔を見たり、「素晴らしかった」という感想をお聞きしたりして、この会を催して良かったと思えました。何より、財団スタッフも体がスイングしていました。今後も伝統芸文化や舞台芸術などで皆様にご喜ばれるような企画をしています。

## 体験と質問コーナー

曲目が決まっているだけで、ほとんどがその場、その時の感性で演奏されていたようです。その演奏スキルにも驚きました。

公演ではなく講演会としているのは、楽器の解説や参加型のワークショップを設けているからです。太鼓の「バチ」についての説明では、「太さや先端形状の異なる複数のバチを使い分け、音の強弱や音色を変えている」とのことでした。周りの音に木（気）を使っている、とユーモアのある解説もありました。

ワークショップでは、三味線を小学生に、和太鼓を大人に体験していただき、三味線と和太鼓のセッションをしました。質問コーナーでは、和太鼓って珍しいの？と問われ、「和太鼓は普通にあるけど日常にはないな」と答えられました。また、セッションのアレンジはどうやるの？に対しては、「掛け合いで相手の言葉に応えるように返す」とのことでした。また、文章区切りの「、」「か。」で返すという名言も飛び出しました。また、小山氏に「鬼滅の刃遊郭編 鬼滅の奏」に出演されたのかと問いかけると、「演奏しただけ」と言われ、その曲を弾いてくれました。



みんなでセッション



和太鼓体験



三味線体験

# デジタル一眼レフカメラ講座 (その9)

2024年9月6日(金)～7日(土)

日本大学芸術学部写真学科准教授 穴吹有希先生を迎えて、デジタル一眼レフカメラ講座が開催されました。長野県の白糸の滝、旧軽井沢銀座と群馬県の鬼押し出し園にて撮影会を行いました。

## 少しの工夫で良い写真

最初に座学を行い、良い写真とは何か？ 基本の構図、カメラの機能や設定について学びました。何気なく構えた場所から5センチ位置を下げたり、一歩近づいてみたりすることでいつもの写真が魅力的になります。

撮影会では、思い通りの被写体を見つけ、これでもかという感じでシャッターを切っていました。先生の熱心なアドバイスを受けながら撮影されている方も見受けられました。

撮影後は、屋内に戻り、プロジェクター

で作品を共有し、先生の講評が行われました。同じ時間、同じ場所で撮影しても、多彩な作品が撮れ、人によってこんなにも違うのかと驚かされました。また、今回選んだ作品にそれぞれタイトルをつけてもらいました。帰りの電車の中まで悩みぬいた人もいました。作品への思いがそうさせるのでしょうか。

今回も日本大学芸術学部写真学科学生の丹治 環さん、黒木 嘉乃さんにお手伝いいただきました。ありがとうございました。



講評する穴吹先生



アドバイスする穴吹先生

## 写真展「わたしの見つけた瞬間」vol.9

10月21日(月)～30日(水)  
於中目黒GTギャラリー

### 誌上写真展



水影



溶岩夫妻



残暑の秋桜と十字架



雲の中のすいかのよう



美しい愛の教会  
聖パウロ教会



地球を歩く



森 穏やかな生と



コートの伝統



大空と観覧車



青い帽子のひと

### 穴吹先生からのワンポイントアドバイス

- ・写真の角をおさえる …… 撮影する時に角を意識すると絵が収まる
- ・一か所で粘って撮る …… 同じ被写体を上から見たり、下から見たり、画角を変えて数枚撮ることによっていろいろな表情がでる

## メディアアーティスト派遣

メディアアーティストの橋本典久氏によるワークショップが各地で開かれました。6月に宮城県松島町立第二小学校で6年生28名が、7月に福島県いわき市立夏井小学校で5・6年生19名が、そして9月に宮城県気仙沼市立唐桑小学校で4・5年生62名が参加しました。

回っているにも関わらず、絵が止まって見える、または動いて見える「おどろき盤」と複数の写真を回転させることで動画に見える「ブラクシノスコープ」を制作しました。

制作過程でどう見えるかを児童たちに考えさせることを心掛けて進められました。作業よりも考える時間を多くし、何かしら発見を



おどろき盤を説明する橋本氏

してほしいと声をかけられました。完成した作品を見て「すげっ」「わお」と児童たちから歓声があがっていました。担任の先生も思わず「あつ、すごい」と声をあげていました。

児童たちから「不思議なものだった」「おもしろい」「家に帰って弟と一緒に作りたい」と感想がありました。

映像の起源に触れ、それが現代のテレビやスマホの動画に発展していることを体験してもらいました。



懸命に制作する児童



おどろき盤を鑑賞し合う児童

## 声楽家アーティスト派遣

この事業は、普段なかなか触れる機会のないプロのアーティスト(声楽家・ピアニスト)を小中学校に派遣し、生の演奏を観て・聴いて・感じてもらう、豊かな感性を育むことを目的としています。2024年5月、福島県いわき市立夏井小学校、同小川小学校にて開催しました。今回は各校とも音楽室での実施となり、声楽家の情感豊かな歌声、息遣い、ピアニストの指の動きや繊細な音色を、間近で体感してもらうことができました。声楽家の声量のすごさにビクッと驚いたり、知っている曲に体を揺らしたりと、子どもたちは個々の感性のままに音楽を楽しんでくれました。最後には、アーティストから直接歌唱指導を受け、一緒に合唱して締めくくりました。両校とも、音楽の専科教員がおられず、先生方は音楽指導に苦労されていると伺いました。プロによる歌唱指導をご覧になった先生方からは



情感豊かな歌声を披露する荒牧先生



荒牧先生と土崎先生の美しいハーモニー



力強い歌声を披露する土崎先生(赤井小学校)



合唱指導を受ける子どもたち(小川小学校)

「今後、自分が指導するうえで大変参考になった」とのお声もいただき、当活動の意義を再認識しました。

## ご報告



### 第46回懸賞論文 「希望—未来に活かす 私の経験—」入賞者が決定

今年も、恒例の懸賞論文の公募が行われました。今回のテーマは「希望—未来に活かす私の経験—」です。厳正な審査の結果、入賞者は次の方々に決まりました。

賞	作品名	氏名	居住地
1席	縁側に託す想い	長谷川 綾	茨城県ひたちなか市
2席	モウチョットマテバ	鄧 朝陽	宮城県仙台市
	二本の水柱に見た希望	本田 美德	大阪府寝屋川市
	新たな自分との出会い	金川 久代	福岡県福岡市
3席	いつか隣人の役に立てるなら	板垣 嘉彦	新潟県村上市
	心の雨にビニル傘	松井 千穂	滋賀県大津市
	食べる喜び、「希望」への扉	朝倉 実唯菜	長野県茅野市
	ストーマにも愛をこめて	紀伊 保	愛知県名古屋
	前を向いて	大倉 麻衣子	静岡県島田市
佳作	ひたむき	土居 清美	大阪府堺市
	温かい手に導かれて	森 千恵子	福岡県福岡市
	一杯の珈琲から♪	西川 直毅	兵庫県西宮市
	一步踏み出すと世界は変わる	田中 恭子	千葉県松戸市
	「希望」の灯	福井 正人	茨城県つくば市
	人生を面白く生きる秘訣	川田 美穂子	東京都新宿区
	1人じゃないよ	澤村 映葉	熊本県熊本市
	川の上から今日も思う	下田 伸一	北海道蛇田郡
	十三歳という転機	李 孰是而	福井県福井市
	私の形を変えた半導体	森 竣祐	埼玉県和光市

### 2024年度 生涯教育研究助成金 対象者が決定

今年度も生涯教育研究助成金の公募が行われ、生涯教育に関する調査・研究をする多くの方々の中から、研究助成金選考委員会による厳正な審査の結果、対象者が決定いたしました。今後の研究が大きな成果に繋がることでしょうか。

- 久保温子 西九州大学
- リハビリテーション学部
- リハビリテーション学科教授
- 野口泰司 国立長寿医療研究センター
- 老年社会科学研究所
- 主任研究員
- 村松俊夫 放送大学
- 山梨学習センター 特任教授
- 杜長俊 北海道大学
- 北海道大学 高等教育推進機構 准教授
- 安原智久 株式会社Medisere
- メデイセレ薬局 薬局長
- 矢ヶ井那津 北九州市立大学
- 地域共生教育センター
- 特任教員
- 成田智恵子 京都産業大学 准教授
- 山下香 甲南女子大学
- 文学部 准教授

### 外国人奨学生 奨学金授与式

- 飛田博章 産業技術大学院大学 教授
- 平部正樹 聖心女子大学 准教授
- 榎野邦彦 岡山大学
- 教師教育開発センター 准教授



証書を手にするPOLINES大学の学生たち

当財団では、成績優秀であるにもかかわらず、残念ながら経済的に恵まれていない学生に、学習の機会を与え、日本との友好関係を築く礎になれば、との思いから外国人奨学生制度を行っています。1999年に中国天津の南開大学から始まったこの制度は、現在では中国、ベトナム、インドネシア、フィリピンに展開しています。9月にインドネシアPOLINEES大学で奨学金授与式が行われ、奨学生一人ひとりに証書が手渡されました。

財団ではこれからも多くの学生に学習の機会を与えるため奨学助成を続けていきます。

### 北野財団混声合唱団 結団式開催

当財団では、6年間にわたりフォーレ「レクイエム」創作オペラ「ヤマタノオロチ」の合唱に取り組みましたが、2018年度より新しい「北野財団混声合唱団」として出発いたしました。今年度も公募で集まった合唱団員46名出席のもと、結団式が10月2日(水)中目黒GTPラザホールで開催されました。合唱指導の荒牧小百合先生、竹内雅拳先生、ピアノ伴奏の矢野里奈先生のご紹介があり、「今回は初めてロシア語の曲があります。コンサートまで休まないでしっかり練習しましょう」とお話がありました。その後、音楽家で聖徳大学短期大学部准教授の春日保人先生による講演会「あの名曲の性格診断—調性格論から見える音楽とは—」が行われ、参加者は大変興味深くメモを取りながら聴いていました。これからの合唱練習にどう活かされるかとても楽しみです。コンサートは3月9日(日)めぐろパーシモンホール小ホールで開催されます。



講演される春日 保人先生

# お知らせ



## 歴史研修

### 関ヶ原の城めぐり

岐阜関ヶ原古戦場記念館、関ヶ原古戦場（決戦地・家康最後陣地・笹尾山・鳥津義弘陣跡・小西行長陣跡・宇喜多秀家陣跡等）、大垣城、岐阜城を歴史研究者・静岡大学名誉教授 小和田哲男氏と共にめぐります。

**日程** 2025年春  
**講師** 小和田哲男氏  
**定員** 40名

## 講演会 舞台芸術『バレエ』に親しむ

国や文化を超えて世界中で最高峰の芸術とされているバレエを、事前の講演会で歴史や音楽、ポジション、マイムなど技術の説明を受けて学び、後日実際の公演を鑑賞する贅沢な講演会です。

**日程** 2025年春  
**講師** 谷桃子バレエ団より  
**定員** 150名程度

## 第52期主要行事のご案内

- 2024年
- 10月 理事会
  - 11月 美術研修
  - 11月 声楽家アーティスト派遣（松島町・気仙沼市）
  - 11月 評議員会
  - 11月 研究助成金授与式
  - 11月 懸賞論文入賞者表彰式
  - 12月 論文集「希望未来に活かす私の経験」発行
  - 12月 彫刻奨学生彫刻作品展
  - 12月 中国（広東工業大学・南開大学・天津大学）奨学金授与式
- 2025年
- 1月 懸賞論文課題決定会議
  - 2月 ライフシフト奨学生募集
  - 2月 懸賞論文公募
  - 2月 研究助成金公募
  - 2月 ライフプランセミナー開催
  - 3月 彫刻奨学生作品設置（山梨県笛吹市）
  - 3月 北野財団混声合唱団コンサート
  - 3月 科目等履修奨学生・放送大学大学院修士全科奨学生成果発表会
  - 3月 ライフシフト奨学生交流会
  - 4月 歴史研修「関ヶ原の城めぐり」
  - 4月 音楽奨学生奨学金授与式
  - 4月 美術研修
  - 4月 音楽研修「ヤマノオロチ」オーディション
  - 5月 講演会「舞台芸術『バレエ』に親しむ
  - 5月 理事会
  - 6月 「ミランダナオ子とも図書館」大学生奨学金授与式
  - 6月 科目等履修奨学生・放送大学「選科履修生・大学院修士全科」奨学生選考委員会
  - 7月 彫刻奨学生奨学金授与式
  - 7月 懸賞論文審査委員会
  - 7月 研究助成金選考委員会
  - 9月 講演会「伝統文化『能』に親しむ
  - 9月 インドネシア（POLINES大学）奨学金授与式
  - 9月 理事会
  - 9月 デジタル一眼レフカメラ講座
  - 9月 ベトナム奨学金授与式
  - 9月 「ミランダナオ子とも図書館」支援物資送付伝承研修
- ※講師等の都合により、スケジュール変更の場合があります。

## こ・ち・ら・編 集 室

当財団では、財団の創設者である北野隆春の出身地、山梨県笛吹市にある『大窪いやしの杜公園』に彫刻奨学生の作品を寄贈しています。今年、設置した彫刻作品が100体を越えたことを記念して、笛吹市が行っている『星空ミュージアム』に合わせて記念式典を開催いたしました。

点灯式当日はあいにくの雨模様でしたがスタンレー電気株式会社のご協力により彫刻作品や樹木が美しく照らされ、昼間とは違うキラキラと幻想的な雰囲気の中、多くの方にご覧いただきました。ライトアップの様子は次号でご紹介いたします。

ところで、当財団は来年50周年を迎えます。さまざまな講演会や研修会を企画し、みなさまへ学ぶ機会を提供してまいります。

### 設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省（現文部科学省）の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

## 生涯教育だより 第136号

2024年11月10日発行  
編集人 香澤 利治  
発行人 北野 重子  
発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会  
〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号  
電話 東京 03 (3711) 1111

## 表紙ギャラリー

当財団は、『出会いにはドラマ、感動する心を大切に』というスローガンのもと、出会いを大切に、様々な学ぶ機会を提供してきました。人との出会いだけではなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出会いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関紙でご紹介します。

### 白神山地（青森県）

白神山地は、青森県と秋田県の県境に位置し、日本海側の標高約200m～1,250mの山地帯にあります。東アジアで最大の原生的なブナ林が広がる地域で、約8,000～12,000年前に北日本の丘陵や山地を覆っていた冷温帯ブナ林が、現在でも途切れることなく広範囲に残存している大変貴重な山域です。世界的にもまれな多雪環境を反映して、日本固有種のブナを主とする森林生態系が広がり、多様な植物群が共存し、国の天然記念物であるクマガイ、ニホンカモシカをはじめ、イヌワシやツキノワグマなど様々な動物が生息しています。

最後の氷河期後から形成されたこの貴重な自然は、1993年日本で初めての世界自然遺産として屋久島と共に登録されました。特に貴重とされる核心エリアには入山制限が設けられ、調査目的のわずかな立ち入りしか許され

ていません。しかし、その周辺には、コバルトブルーの青池、沸壺の池など十二湖と呼ばれる湖沼群や、トレッキングコース、スノーシューエリアなどもあり、楽しみながら自然との共生を学ぶ場なども整えられています。

深い自然の恵みに触れ、その大切さを学ぶ旅もいいですね。

### 環境省HP

「白神山地世界遺産センター」より一部引用



写真提供：denkei/PIXTA



早稲田大学  
教育総合科学学術院 教授

**菊地 栄治** さん

EIJI KIKUCHI

# 生涯学習は、「知らないことを知る」 ことから始まる

当財団の奨学金選考委員会の選考委員を務める菊地さん。  
ご自身の経歴をもとに、生涯学習に対するお考えをお話いただきました。

「菊地さんのご経歴と、現在の主な研究内容についてお聞かせください。」

自分でも変わっているなと思うのですが、高校のときから教育研究者を志していました。きっかけは受験勉強。一生懸命暗記して吐き出すような学びに、本当に意味はあるのかという疑問をずっと抱えていました。大学院で学んだ後は文部科学省が所轄する国立教育研究所（現・国立教育政策研究所）の研究

員として勤務。そこでは、主に高校の教育現場の実態を把握して政策を考えるという業務を行っていました。国立教育研究所に14年間務めた後、2005年からは早稲田大学の教員として、教育社会学を専門に20年近く教鞭をとりながら研究を続けています。ここでも高校教育の研究を行い、新しい取り組みを行っている高校の生徒や教員を取材して報告書にまとめたり、教育現場に入り込みながらプロジェクトを推進したりしています。

近年、高校教育はさまざまな形に多様化してきています。例えば、普通科の中でもある程度自由にかリキラムを組むことができる総合選択制高校や、学校の時間を3部制にすることで自分のペースで授業が受けられる単位制高校などがあります。その中でも、私が注目しているのは、「普通科」「専門学科」に次ぐ第3の学科として設立された「総合学科」です。生徒の個性を活かした主体的な学習を重視した学科で、生徒は幅広い選択科目の中から自分の進路にあった科目を選択して学ぶことができます。とくに大阪府の松原高校が実施している総合学科の取り組みに共感し、長年学校運営協議会のメンバーとして学校づくりに協力。生徒や教員などの当事者の声に耳を傾け、現場が主体となる学校づくりをサポートしています。



ゼミ生とのライブの様子（左下は、3年に1度のゼミ同窓会）

「奨学金選考委員会の選考委員を務めて

いただくことになった経緯について教えてください。」

財団の理事を務められている耳塚先生とは国立教育研究所のときから親交があり、その縁から審査員のお話をいただきました。北野財団の奨学金はすくなく丁寧に選考されていますし、公的な奨学金が少なくなってきた中で民間の組織が真摯に勉学に励む人々の思いに応答するような制度を作られたのはすごいと思います。そうした有意義な活動に選考委員という形で携われることをうれしく思います。私の尊敬する人に、倉敷紡績の2代目社長であり実業家の大原孫三郎という方がいます。大原氏は「自身の財産は世のため人のために使い切る」と言っており、自らの財を病院や美術館を建てるために費やしました。北野財団の活動を含め、そういう方々が増えれば世の中はもっと良くなるはずですよ。

「生涯教育に対するお考えをお聞かせください。」

「いつまでたっても自分は多くのことを理解していない」。ここに向き合うことが生涯教育の根幹だと私は思います。自分の足りないところを知って、それを通じて社会や他者に目を向ける。そして、できれば少しでも社会が良くなるように働きかけられることが大切だと思います。研究もそうであるように、自分にとって意味があると思えるものであれば人は

学び続けることができます。自分にとって興味のあることや、楽しいと思えるもの、社会にとって良いと思えるものなどを素直に続けることが重要です。

「余暇の過ごし方を教えてください。」

現在は活動を休止しているのですが、コロナ禍前はゼミ生とバンドをやっていました。もともと音楽の経験はなかったのですが、たまにたまゼミ生にドラムをやっていた学生がいたことがきっかけで2007年頃から始めました。私はギターボーカルを担当しています。ライブはいつもMr.Children縛りで14曲ほど歌いますが、聴く側の忍耐力と優しさが試されます。音楽を通じて、ゼミ生が生き生きした姿を見ることがうれいすね。

「読者の皆さんにメッセージをお願いします。」

大人になつて以降の学びも応援し続けてくれる北野財団。奨学金制度をはじめ、年を重ねても人と人とのつながりを大切に、育ち合うという活動は、社会にとっても大事なものだと思っています。今後も奨学金選考委員という立場で、その活動の端を担えたらと思います。

現在は教育社会学以外にも、人類学、経済学にも目を向けているという菊地先生。「新たな気づきがある」目を輝かせる姿は、まさに生涯教育のあるべき姿なのかもしれません。

